

「GX 経営 WEEK」(幕張メッセ展示会) 取材記

【脱炭素関係の大規模展示会に行ってきました】

この 10 月 2 日、幕張メッセ(千葉市)で開会した「第 5 回 GX (グリーン・トランスフォーメーション) 経営 WEEK」という大規模な展示会の初日に行っていました。これは「第 22 回スマートエネルギーWEEK」と合同開催で、「GX 経営」は「脱炭素経営」、「サーキュラー・エコノミー」、そして「スマートエネルギー」は「太陽光発電」、「風力発電」、「水素・燃料電池」、「バッテリー」、「スマートグリッド」、「CCUS(CO₂ の分離・回収・利用・貯蔵)技術」など、幅広くカバーされています。

東経連事務局としては、こうした大規模展示会に参加することでカーボンニュートラル(CN)推進活動へのヒントが得られるかもしれないとの思いで参加したものです。

【熱気溢れる展示ブース】

オープニング早々から各展示ブースには大勢の人が詰めかけており、CN 関連サービスの最新動向を探りに来たと思われる来場者と自社サービスの宣伝に努める出展者との間で熱の籠った質疑が交わされていました。

今回の訪問のメインは「脱炭素経営」でしたが、出展者は、商社、電機メーカー、通信会社、電力会社等々とそのグループ企業をはじめとして、誰もが知る大手の企業から気鋭のベンチャーまで規模は様々で、展示されていたサービスは、大まかに言えば「脱炭素ソリューション」、「GX コンサルティング」、「GHG (温室効果ガス) 排出量見える化」、「資源循環ソリューション」、「サプライチェーン可視化」等々といったところでした。

サービスの内容として最も多かったのが「GHG (温室効果ガス) 排出量見える化サービス」で、データ収集・入力作業を極力自動化・省力化しようとするもので、さらに、廃棄物の管理まで対象を拡大しているサービスや、見える化により課題を見出し、削減対策につなげるとともに、国際規格や政府施策への諸報告作成の自動化・省力化に繋げようとするものであり、各社工夫を凝らした展示がされていました。



展示は自社のサービスの販売・営業がほとんどでしたが、大手の出展者の中には、この展示会を機会に自社の CN への取組みを PR することで、企業イメージ向上へつなげようとする意図が強く感じられるところもありました。

【印刷業の CO2 排出量見える化】

前述のように、CO2 排出量の「見える化」を目的としたソフトウェアの導入促進のブースが目立ち、情報や選択が多岐に渡ることで、「どれを選定したらいいのか？」は難しいと感じました。そうした中で、印刷企業によるメーカー向けの商品パッケージや包装に特化した「CO2 排出量見える化」についての展示に目を引かれました。他のサービスではどのような業種にも適用可能な汎用性が高いものでしたが、その次のステップとして CO2 削減などの「改善」についての具体的なイメージまで及びませんでした。しかしこの展示は、本業の印刷業で今まで培ってきたノウハウや経験が生かされており、見える化に留まらず、改善策として具体的なデザインや素材の提案を行うことができる地に足が着いた分かりやすいシステムでした。

同社にこうしたサービスを始めた経緯を伺ったところ、「国際的な環境意識の高まりに対して、本業を進めていく中で自然と必要となった取り組み」とのことでした。そして、このサービスを売ることが主目的ではなく、このシステムの導入を通じて顧客が課題を明確にすることで、課題解決に向けて原材料やデザインなどのも見直しを提案していくための「きっかけづくり」にしたいとのことでした。

【次世代コンクリート】

脱炭素関係の展示の中で、意外なところでは「コンクリート」に関するものがいくつかありました。コンクリートの構成材料の一つであるセメントは原料の石灰石などを 1450℃の高温で燃焼して製造するため、コンクリートにおける CO2 排出量の約 90%はセメントに起因しているとのこと。そうした工程を見直して、CO2 の大幅な削減・固定化につなげようとするものです。さらに、こうした、いわゆる「脱炭素系コンクリート」の開発に加えて、CO2 排出量を「見える化」のシステムとして、納入実績の記録データによって脱炭素系コンクリートの来歴を管理する「Decarbo-Badge Factory」を構築しているとのこと。このシステムには建設産業の脱炭素化を加速させるために結集した全国の主要コンクリートメーカー55社によるコンクリート GX 政策集団『aNET ZERO イニシアティブ』が連携して運用を開始しており、分散型ネットワークとしてブロックチェーンの技術を使って信頼度を高めているということです。

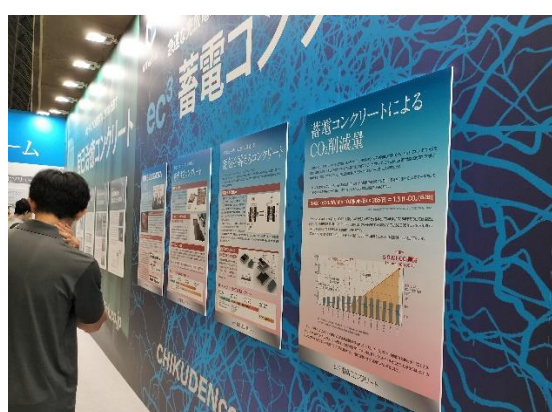
aNET ZERO Initiative <https://www.a-netzero.com/>

このイニシアティブの中核企業は會澤高圧コンクリート(株)様(本社:北海道苫小牧市)で、2023年6月には福島県浪江町に「福島 RDM センター」を設立し、この来歴管理システムを運用しているほか、次世代コンクリート他の先進技術の実証実験などを進めているとのことです。

福島 RDM センター <https://www.aizawa-rdm.jp/>

また、展示会では次世代コンクリートとして「(バクテリアを活用した)自己治癒コンクリート」や、同社が米国 MIT と連携して開発を始めた「蓄電コンクリート」などの説明もあり、「自己治癒コンクリート」は既に国土交通省を含めて納入実績もあるとの事です。

こうした次世代コンクリートが大規模に普及することは日本、そして世界の CN 実現の大きな力になるように思います。



【多くの発見や気づき】

そのほか、全国の農家と連携して農業由来のカーボンクレジットを生成して企業との間でクレジット売買を仲介する会社や、EV 車への走行中給電システムのデモ等々、多くの目を引く展示があり、CN に関する視野が広がりました。

今回のような展示会は各地で頻繁に開催されており、参加費も無料ながら参考になる情報に溢れています。会員の皆様にも機会があれば気軽に参加されると有益かと思えます。

以上

※今回取材した展示会

【GX 経営 WEEK】2024 年 10/2~4 幕張メッセ (千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1)

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp.html>

(取材・記事作成: 一般社団法人東北経済連合会 経済政策グループ・佐藤) 2024.10.11 記